ドミニカ共和国におけるHuman T-Cell Lymphotropic Virus type 1(HTLV-1)に対する抗体保有状況調査

小野 哲郎[1] 石松 義弘[1] デルフィ タベラス[1] ミルドレ ディスラ[1]
バルバラ ガルシア[1] 牧野 芳大[2]
Centro de Educacion Medica de Amistad Dominico-Japonesa[1]
大分大学 医学部 感染分子病態制御講座[2]

目的と背景HTLV-1はATL, HAM/TSP, HAB, HAAP, Uveitis等の起因ウイルスとして知られており、世界のあちらこちらに分布している。南米アメリカでも、カリブ海沿岸地域で広く感染者が分布しており、特にインデイオ等先住民に感染者が高いと報告されている。しかし、カリブ海地域に位置するドミニカ共和国におけるHTLV-1に関する調査は現在まで殆ど行われておらず、HTLV-1の侵淫状況等の実態は未だ不明である。そこで今回、我々はドミニカ共和国におけるHTLV-1の侵淫状況を把握するため、首都サントドミンゴ市内および全国の6都市で2,001年から2,002年にデング熱疑い患者より採血した血清を用いてHTLV-1の侵淫状況を調査した。材料および方法2001年から2002年に首都サントドミンゴ市内および全国の6都市でデング熱疑い患者より採血された男性1,069件、女性2,006件合計3,075名の血清を対象とした。HTLV-1抗体の測定は、MT-2細胞を抗原とした間接蛍光抗体法で実施し、40倍以上の抗体価を示したものを陽性とした。本調査はCentro de Educacion Medica de Amistad Dominico-Japonesa (CEMADOJA)の倫理委員会の承認を得た。結果と考察HTLV-1に対する抗体保有者は男性14名（1.33%）女性41名（2.09%）の合計55名（1.82%）に認められた。地域別の抗体保有率は0.78%～2.88%と差が認められ、北部の都市で抗体保有率が高く、南部で低い傾向が見られた。男女間においては、女性の抗体保有率が高く認められた。年齢区分においては0%～5.97%と大きな差が認められたが、これは検体数の違いによるものと思われ、全体的には有意差は認められなかった。今回の調査でサントドミンゴを含め、全国7都市で合計3,075検体の血清を調査し、55検体（1.82%）がHTLV-1抗体陽性を示し、ドミニカ国内に広く侵淫していることが推察された。今後ドミニカ国内でのHTLV-1感染予防対策を講じるためには更に詳細な調査が必要と考える。

A serosurvey of human T-cell lymphotropic virus type 1(HTLV-1) in Republic Dominicana

TETSURO ONO
Centro de Educacion Medica de Amistad Dominico-Japonesa, Santo Domingo, Rep. Dominica